# 地域ケア推進会議検討事項

## ＜高齢者を地域生活で孤立させないための施策について＞

令和7年3月19日

岡山市 保健福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課

# 1. 孤独・孤立対策について

## 孤独・孤立とは

○「孤独」は主観的概念、ひとりぼっちと感じる精神的な状態

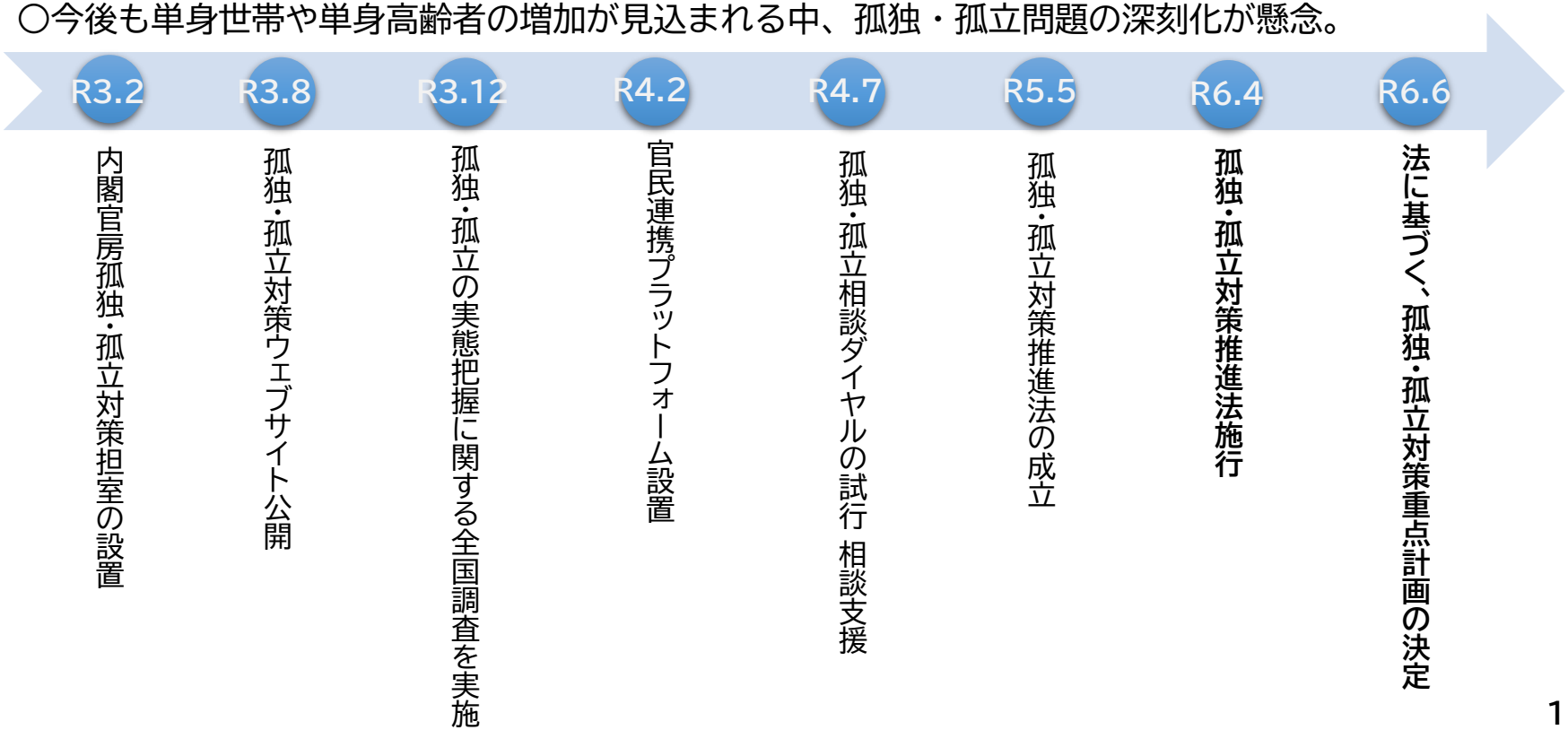
○「孤立」は客観的概念、社会とのつながりのない/少ない状態

## 孤独・孤立問題の背景と国の対策

○社会構造の変化（単身世帯の増加、働き方の多様化、ＳＮＳ等の普及）により、家族や地域などにおける人との「つながり」が希薄化し、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況。

○コロナ禍により社会環境が変化し、孤独・孤立問題が顕在化・深刻化。

○今後も単身世帯や単身高齢者の増加が見込まれる中、孤独・孤立問題の深刻化が懸念。



## ◇孤独・孤立対策推進法（令和６年４月１日施行）

〇趣旨

「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」を目指す。

〇基本理念（第２条）

（１）孤独・孤立双方への社会全体での対応

（２）当事者等の立場に立った施策の推進

（３）社会との関わり及び人と人との「つながり」を実感できるための施策推進

## ◇孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画（令和６年６月１１日決定）

〇孤独・孤立対策の基本方針

（１）孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする。

（２）状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる。

（３）見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う。

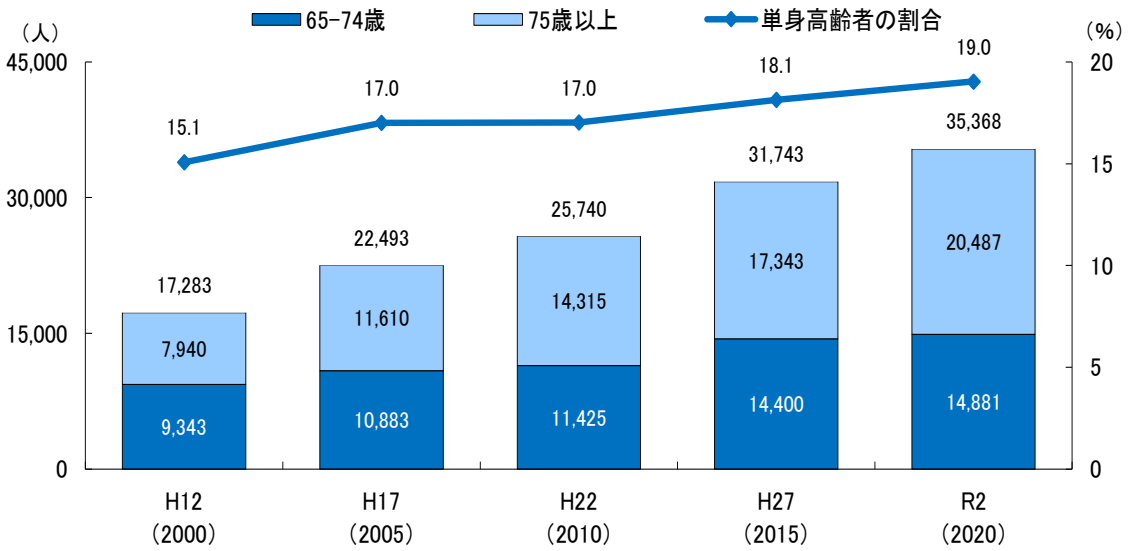
（４）孤独・孤立対策に取り組むＮＰＯ等の活動をきめ細かく支援し、官・民・ＮＰＯ 等の連携を強化する。

年齢・属性に関わらずあらゆる人が対象になる孤独・孤立の問題については、社会のあらゆる分野に孤独・孤立の視点を入れて対応することが必要。

**関係課で施策の共有・連携を行い、既存事業の改善・見直しや新規事業の拡充を検討していく。**

# 2. 高齢者単身世帯について

## 【高齢者単身世帯の推移(岡山市)】




・岡山市の高齢者単身世帯は、令和2年(2020年)時点で35,368人と平成12年(2000年)からの20年間で約2倍に増加し、高齢者に占める割合も15.1%から19.0%になっている。

・75歳以上の高齢者単身世帯は令和2年(2020年)に20,487人となり、平成12年(2000年)からの20年間で約2.6倍に増加している。

岡山市第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(地域包括ケア計画)より

## 【高齢者単身世帯の推計(全国)】

・令和6年4月に国立社会保障・人口問題研究所から発表された、『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』によると、2050年には、65歳以上の高齢者単身世帯が、2020年比で約1.5倍に、75歳以上の高齢者単身世帯は約1.7倍に増加する見通し。

令和2年(2020年)

| 総世帯数 | 55,705千世帯 | 総世帯数に占める割合 |
|---|---|---|
| 高齢者単身世帯(65歳以上) | 7,378千世帯 | 13.2% |
| 高齢者単身世帯(75歳以上) | 4,171千世帯 | 7.5% |

令和32年(2050年)

| 総世帯数 | 52,607千世帯 | 総世帯数に占める割合 |
|---|---|---|
| 高齢者単身世帯(65歳以上) | 10,839千世帯 | 20.6% |
| 高齢者単身世帯(75歳以上) | 7,040千世帯 | 13.4% |

国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』令和6(2024)年推計から抜粋

# 3. 単身高齢者等への支援について

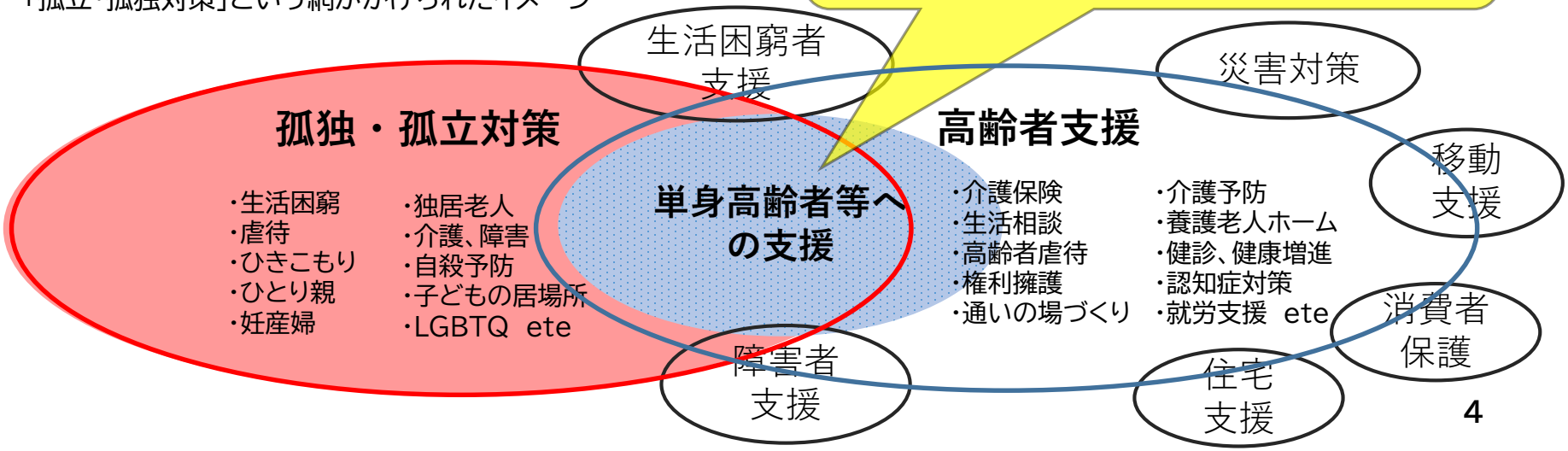
## ○孤独・孤立が高齢者へもたらす影響

・抑うつ症状を高める
・生活機能、認知機能低下のリスクを高める
・心疾患、脳卒中の発症リスクを高める
・消費者被害の増加
・緊急時の対応が困難

## ○高齢者支援と孤独・孤立対策の関係

・高齢者支援の対象者のうち、単身高齢者等に対して「孤立・孤独対策」という網がかけられたイメージ

単身高齢者や支援を必要とする高齢者のみの世帯に対し、孤独・孤立対策の視点を持って、幅広に支援を検討する必要がある。



# 4.（1） 地域ケア連携会議からのまとめ

## ○単身高齢者等に関する地域の課題と対策

・令和6年度地域ケア連携会議では、各福祉区の地域包括支援センターごとにテーマを設定し、住民同士の支え合い活動を行っている者が集まり、それぞれ、地域の現状・活動内容・課題・解決策等の意見交換を行った。

・「世代間交流の必要性」、「気軽に集まれる通いの場づくり」、「移動手段の確保」などが課題として挙がり、日頃から地域で「つながり」を持っておくことの重要性が再確認された。

### 地域が抱える単身高齢者等の課題

- ○世代間交流が必要
  （子供と高齢者のマッチングetc）
- ○形にこだわらず、気軽に参加できる「ゆるやか」なつながりの場も必要
- ○要支援者が声を上げやすい仕組をどう作っていくか
- ○災害時における高齢者への対応
  （昼間だけでなく夜間訓練も必要）
- ○担い手の高齢化（後継者不足）
- ○移動手段がない（免許返納・歩行困難）
  （地域の法人や関係機関との連携）

### 地域が行っている対策の例
### （全ての学区で行われてはいない）

- ○見守りグループの結成
  ・高齢者世帯のマップを作成し地域で共有
  ・4～5世帯ごとに隣組を作って支え合う
  ・連合町内会と消防団でタッグを組む
  ・地区の郵便局や民生委員と協働する
- ○学区の避難所が高齢者にとって移動困難な地区であるため、町内単位で避難所や物資を準備している
- ○学区で地域の集いの場マップを作成
- ○高齢者や独居の人を地域へ誘い出す仕組みづくりへの取組（お祭り等イベント）

# 4.（2-1）会議で話し合われた地域の実情

**（1）北区中央：防災をとおして地域のつながりを強めよう**

①どの団体も「点」の活動をされている印象。どこかとどこかがつながればそれが広がり、自治体、地域住民、企業、福祉避難所、避難所、医療・介護専門職でつながることが大事だと思う。

②世代間の考え方や町の成り立ちも違うので他の町の成功例が自分たちの町内に当てはまるとは言えない。

③人と人がつながるには、まず町内など顔なじみになりいろんな人を巻き込みながら「防災」をテーマに地域づくりをするのが良い。地域のお祭りやイベントに参加し、まず自分を知ってもらう大切さから、地域の問題、自分の抱える問題解決につながっていくと感じた。

**（2）北区北：災害時に備えて、近助でつながろう**

④高齢化率６０％を超える地区では、高齢者が避難所（学区）まで移動が困難なため、町内単位で避難所・物資を準備している。

⑤昼間だけでなく、夜間の避難訓練も必要。

⑥地域の人が福祉の対応する部門を知らなかったり、理解できていないと思う。

**（3）中区：高齢者がいきいきと暮らすためには**

⑦ゆるやかなつながりをもてるようにしたい（ゴミ出しの時に挨拶する程度）。

⑧サロンの数は多いが代表者が高齢化しており担い手不足から継続が不安。

⑨横のつながりが大事、子供と高齢者のマッチングができるといいなと感じている。

# 4.（2-2)会議で話し合われた地域の実情

**（4）東区：地域と多機関で考える移動困難者の地域の助け合いによる外出支援**

⑩ヘルパー事業所が大赤字で、なり手もおらず在宅利用者が危機になると感じている。

⑪買い物に行くことができても、荷物が重いと持って帰れない。

⑫事業所の送迎用の車も使用していない時間の活用を考えることができないか。

⑬公共交通が近くにない。デマンドは公共交通への中継地点までで、いきたい場所までではないことがある。地域負担がある。

**（5）南区南：社会参加（人とのつながり、地域づくり活動）**

⑭サロンという形にならなくても気軽にお茶を飲む場などがあっても良い。

⑮趣味の集まりに参加することが自然な見守りになっている。

⑯ボランティアを行う人自体の高齢化。ボランティアできる人をどう集めていくかが課題。

⑰地域活動や、ボランティア参加はフレイル予防にもなり大切なことだと感じました。でも参加をお願いできていない。社会参加について導くまでの寄り添う手法が課題だと思う。

**（6）南区西：防災をとおして考える地域のつながり**

⑱地域（地区、町内）をこえた助け合いを大事にしている。

⑲防災教室での意識づけが大事、そこから年代間の意識の差を埋めていけないかを考えている。

⑳地域との日頃のつながりが減災に。地域をこえたつながりや地域と事業所のつながりも大事だと思う。